

人吉市人口ビジョン・概要版

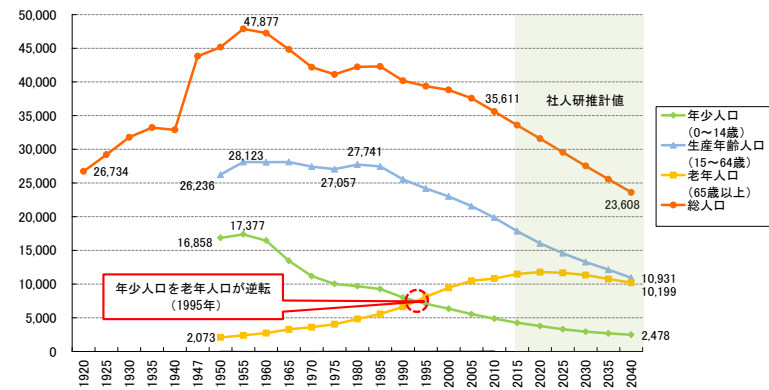
人口動向分析

人口動向分析

時系列による人口動向分析

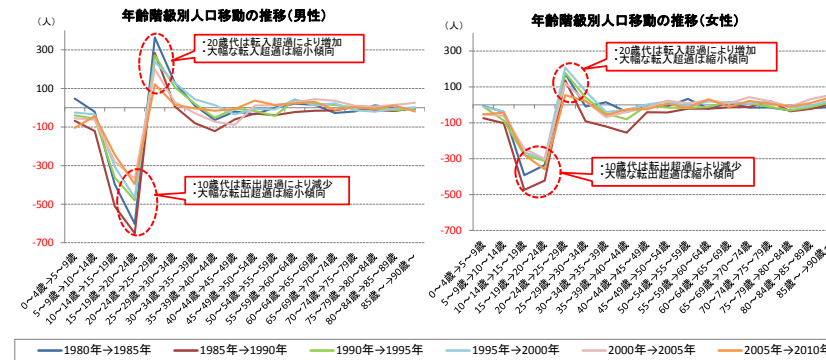
- ◆総人口：昭和30(1955)年の47,877人をピークに減少、平成22(2010)年現在は35,611人。
- ◆生産年齢人口：平成2(1990)年以降バブル経済崩壊と共に人口流出、減少。
- ◆年少人口：一貫して減少傾向
- ◆老年人口：一貫して増加傾向
- ◆出生数：一貫して減少傾向
- ◆転入・転出とも減少傾向、一貫して転出超過。

年齢3区分別人口の推移と将来推計



年齢階級別の人口移動分析

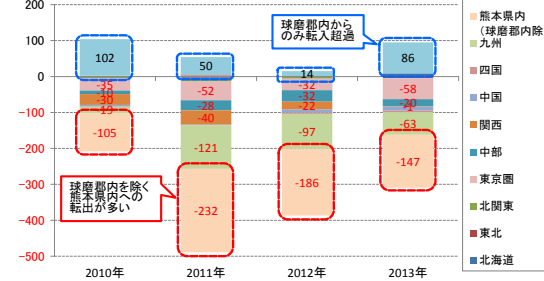
- ◆男女(平成17(2005)年→平成22(2010)年)ともに、15-19歳→20-24歳時に大幅な転出超過(高校等の卒業)、20-24歳→25-29歳時に大幅な転入超過(Uターン)。転出超過数が転入超過数を上回る(人口流出)。
- ◆学校卒業等に伴う転出超過数、転入超過数ともに人口減少に併せて縮小。50-60歳代は転入超過傾向。



圏域における転入・転出に関する調査分析

- ◆圏域内：転入超過
- ◆圏域外・全体：転出超過。
- ◆圏域内移動数：各年齢階級とも転入超過。
- ◆圏域におけるダム機能の役割を果たす(仕事、病院等)。

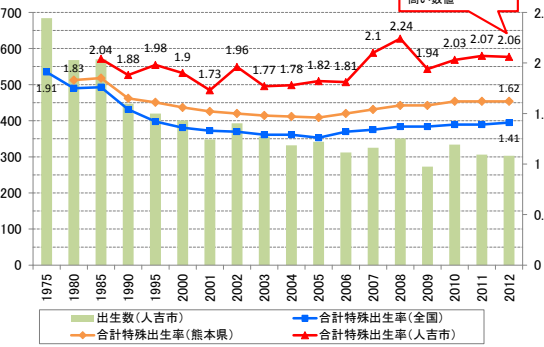
地域ブロック別人口移動の経年変化



自然動態に関する分析

- ◆合計特殊出生率：2.06(平成24(2012)年) 全国平均と比べて高い値で推移(若い女性は減少)
- ◆30歳以上で出産する女性が増加。晩産化の傾向。
- ◆30歳、40歳代の未婚女性が増加。晩婚化の傾向。

合計特殊出生率と出生数の推移



雇用や就労等に関する分析

- ◆第1次産業人口減少。担い手不足。
- ◆林業の特化係数が特に高い。
- ◆若年齢の労働力人口が少なく、高年齢が多い。

人口の将来展望

内部・外部環境要因の分析結果

本市には多様な地域資源や豊かな森林があり、それらを活かした地域産業の活性化や、地域産業を担う人材育成を行うことにより、後継者不足の解消や産業力の強化等によるしごとの創出が期待できます。また、地域資源・観光資源や多様な情報技術を活かすことにより交流機会の増大や企業誘致等による新しいひとの流れが期待できます。しごとができ、ひとの流れがうまくいくことで、人口減少が抑制されるとともに、地域に賑わいが創出され、まちの活性化につながります。

めざすべき将来の方向

しごとの創生

本市の「しごと」の創生の鍵は「ひと」であるとの認識のもと、未来の産業振興を担う人材の育成や新たな地域産業を拓く企業や学校等への支援を推進するとともに、本市の「しごと」の創生を牽引する新たな核となる地域産業、「まち」づくりとも連動した新たな産業基盤の確立に向けた取組を推進します。

ひとの創生

本市への新しい「ひと」の流れをつくるため、「しごと」の創生を図りつつ、地域資源を活かした交流や移住等を促進するとともに、暮らしの負担を和らげつつ、結婚・出産・子育ての希望をかなえ、果敢に仕事にチャレンジできるよう切れ目のない取組を推進します。

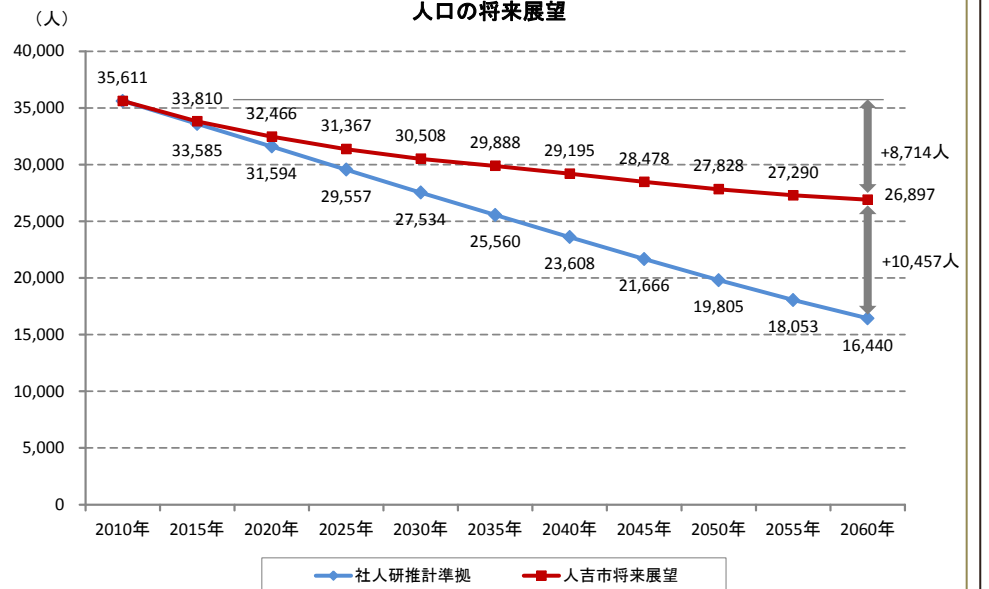
まちの創生

「しごと」と「ひと」の好循環を支える「まち」を創生するため、時代にあった地域づくり、安全・安心な暮らしづくり、また人吉・球磨地域の人口のダム機能の役割を果たすべく地域連携による豊かな経済・生活圏づくりを推進し、人吉らしい新たな暮らしのスタイルを確立します。

人口の将来展望

平成22(2010)年の人口：35,611人

平成72(2060)年の人口：26,897人



将来展望の仮定

- ◆合計特殊出生率：現在の出生率を維持し、2060年まで2.1で推移
- ◆移動率：転出が抑制され、転入(Uターン等)が促進されるものとし、5年毎の増減率を仮定

将来人口推計

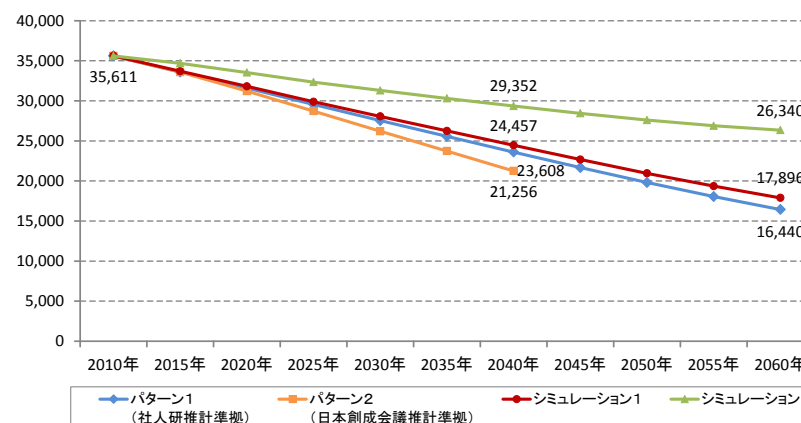
将来人口推計

- ◆パターン1(社人研) 23,608人(2040年)
- ※2010年純移動率が2020年に0.5倍に縮小し、2040年まで一定
- ◆パターン2(日本創成会議) 21,256人(2040年)
- ※2015年純移動数推計値が縮小せず、2040年迄は同水準で推移
- ◆シミュレーション1 24,457人(2040年)
- ※パターン1条件下、2030年迄に合計特殊出生率が2.1に上昇
- ◆シミュレーション2 29,352人(2040年)
- ※シミュレーション1条件下、移動率がゼロ(均衡)で推移

将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

- ◆特に社会増減の影響が強い。
- ◆人口減少率低減のためには、出生率上昇の仮定のみでは難しいが、移動均衡の仮定を加えることで、総人口のみならず年少人口、生産年齢人口、20-39歳女性人口の減少率を大きく低減可能。

総人口の集計結果



将来展望

- ◆総人口：平成72(2060)年には26,897人。人口減少が続くが、社会研推計準拠により推計された平成72(2060)年の人口16,440人に対して、10,457人の減少が抑制。
- ◆年少人口：3,831人(全体の約14.2%) 生産年齢人口：14,731人(全体の約54.8%) 老年人口：8,335人(全体の約31.0%)
- ◆老年人口比率：平成42(2030)年に39.1%でピーク。その後は減少に転じ、平成72(2060)年には平成22(2010)年の年齢3区分割合と同じ程度の水準に戻る。
- ◆平成122(2110)年には人口が26,326人となり、平成72(2060)年の人口26,897人に対して571人減少。100年後も平成82(2070)年の人口を概ね維持。

年齢3区分割合の推移(将来展望)

